

外部専門家・自立活動連携相談について

自立活動係では、職員の専門性や指導力向上のために、外部専門家の先生をお呼びしております。今年度も4名の先生に来校していただき、連携・相談を行いました。

○理学療法士 (PT)

○言語聴覚士 (ST)

○作業療法士 (OT)

○作業療法士 (心理士)

※作業療法士の先生には、心理面においてもカバーしていただける研修を行っております。

外部専門家の先生方とは、自立活動の指導を充実させるために、困難さの背景要因を探る視点で連携・相談を行っており、直接的な指導の改善を図るための話し合いなども行っております。

今回は、作業療法士 (OT) との相談について報告させていただきます。

【作業療法士 (OT)】

作業療法士 (OT) は、その人らしい将来の生活をイメージして指導を行う専門家です。感覚・知覚、精神面、認知面での評価や食事、トイレなどの日常生活で必要となる活動を応用していく力、地域社会へ適応していく力に視点をしています。ご指導いただいた事例についていくつか紹介します。

○エジソン箸から普通箸への移行について

普通箸での練習に生徒自身積極的になれないことから、手指の動き等の実態を見ていただきました。箸を使うために必要な基礎的な手指の動きはできていることから、当時使っていたエジソン箸の次のステップのエジソン箸 (ちゃんと箸) を使って練習をするとよいというお話をいただきました。また、普通箸を使う際、小指と薬指が開いてしまうため、小指・薬指と手の平の間に小さなものを持って練習に取り組むとよいと提案していただき、さいころを活用して練習を継続しました。少しずつ、普通箸での食事を行えるようになってきています。



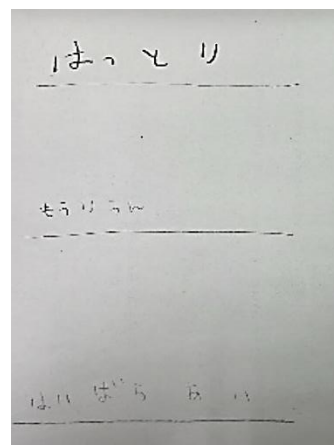
↑ちゃんと箸を活用している様子



↑小指・薬指と手の平の間にさいころを持って普通箸の練習をしている様子

○筆圧について

マジック等のペン先をつぶしてしまうほど筆圧が強いため、生徒に合った適切な筆圧をコントロールするための練習方法を一緒に考えていただきました。自分の力がどのくらい入っているかを感覚だけで気付いたり調整したりすることが難しいことから、筆圧が強くなっている実態を OT の先生が見取ってくださいました。OT の先生の指を「0の力 (すごく弱い)」「10の力 (すごく強い)」という言葉かけを受けて握った後、「3の力」「5の力」で書くように言葉かけすると、ほどよい筆圧で書くことができました。



←上から「十の力」「五の力」「三の力」で書いたもの